

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	多機能型通所支援事業所スペース		
○保護者評価実施期間	R 7年 1月 4日		～ R 7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	R 7年 1月 4日		～ R 7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	R 7年 2月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童発達支援計画を子どもと保護者のニーズ、課題を客観的に分析して作成していること。	・児童に適したフォーマル・インフォーマルなアセスメントを実施している。 ・作業療法士・言語聴覚士・公認心理士などによるアプローチ案を定期的なカンファレンスで意見交換している。	・全職員に対しての職員研修をガイドラインに基づく必須の研修だけでなく、各種専門的な支援方法やアプローチ案などの具体的な支援内容にフォーカスし、提案していく。
2	・運営規定や支援プログラム、利用者負担等についての丁寧な説明が来ていること。	・決められたフォーマットだけにとどまらず、本人や保護者のバックグラウンドを情報提供の中から想定し、それに伴う想定されるケースや心配事などについては説明をより重視して行っている。	・運営規定や支援プログラム、利用者負担などの説明の際に用いる様式のレイアウトをより説明を受けやすい配慮を行っていく。
3	・日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解が来ていると思う。	・保護者だけでなく、通所先の幼稚園・保育園・こども園など保育施設への訪問や、アセスメントの結果について情報提供を行っている。 ・連絡帳やLINEで利用ごとに細かく説明していることに加え、希望者には撮影した児童の様子を保護者と共有しながら、動画を見ながらの説明などを専門のスタッフが行う。	・アセスメントの結果を共有するだけでなく、家庭・保育施設でそれぞれ想定される取り組みやアプローチ案について療育側の視点でアイデアを提案していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・父母の会の活動の支援や、保護者会の開催、保護者同士の交流の機会が乏しい。	・プライバシーや事業所の運営形態（月～土・祝日も午前・午後営業）の状況等によって時間的な開催が難しい。	・アンケートなどを実施し、父母の会や保護者会・交流会のニーズを調査する。 ・調査結果によっては交流の機会を何らかの形で導入し、保護者同士のネットワーク形成がより充実するようにシステムを設計していく。
2	・きょうだい同士の交流の機会など、きょうだいへの支援が乏しい。 ・保育所や認定こども園、幼稚園との交流の機会が乏しい。	・利用児以外の児童との交流の場の作り方や仕組みについて、情報やノウハウが乏しく、大規模な交流については、実現に至らないと考えている。	・他事業所の取り組みなどについて、研修等、実例の見学などに積極的に参加しながら、ノウハウを蓄積し、交流の機会をより提供できるようにしていく。
3	・定期的なホームページ・SNS等での活動概要や行事予定、連絡体制等の状況発信が乏しい。	・プライバシー・個人情報保護の観点から、SNS等での発信は控えるという会社方針があるため、情報発信などには慎重になっている。	・写真や個人が特定されないような内容の発信などを中心に展開していき、事業所の取り組みなどについてこまめな更新などを行っていく。